

令和7年度学力向上推進計画

和歌山のこどもの確かな学力の向上をめざして

現状と課題

和歌山県教育委員会

- 各中学校区の学校間で、義務教育9年間を見通した学習指導など、教育課程に関する共通の取組に不十分な点がみられる。
- 教員の大量退職、大量採用、また学校の小規模化により、先輩教員から若手教員への知識や技術等の伝達が困難になっている。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善がより一層必要である。
- ICT機器を効果的に活用した、授業改善につながる実践が全国に比べて進んでいない。
- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力や、表現の効果を考へて書くなど、自分の考えが伝わるように書く力に課題がある。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合が全国に比べて低い。
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、全く勉強をしない児童生徒の割合が全国に比べて高い。

成果指標 [令和8年度全国学力・学習状況調査結果]

- 教科に関する調査結果で、全ての教科の県平均正答率が全国平均以上になる。
- 次の学校質問調査結果が、全国の割合と同程度になる。
 - ・近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行っている学校の割合
 - ・自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒にICT機器を週3回以上使用させている学校の割合
- 次の児童生徒質問調査結果が、全国の割合と同程度になる。
 - ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う児童生徒の割合
 - ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合
 - ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、全く勉強をしない児童生徒の割合

取組

1 「チーム学校」としての組織力向上

- 「スクールプラン」、「学力向上推進プラン」に基づいた学校経営の促進
- 組織力向上のための管理職研修会の実施
- 義務教育9年間を見通した計画的・継続的な学習指導の促進

2 学び続ける教員の育成

- 学校の取組等を支援する「きのくに学力定着フォローアップ事業」の実施
- 組織力、授業力向上に向けた研修会の実施
- 教員の授業力向上に向けた教科等研究団体の研究支援の実施

3 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善

- 「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条 第二版（きのくに学習スタンダード）」の活用の徹底
- 市町村教育委員会と連携し、「こどもが主役である授業」の実現や授業力向上をめざした指導・支援の実施
- 児童生徒の主体的な取組等を促進する「わかやまスクールパワーアップ事業」の実施
- 探究的な学びに係る実践力の向上を図る「きいtubeで発信事業」の実施
- 国語・理科授業事例集（DVD）及び動画コンテンツの活用の促進
- 学校図書館の活用の促進
- ICT活用の促進

4 学力定着のための基盤づくり

- 県提供教材の活用等による補充学習の充実と家庭学習の習慣化の促進
- 県学習到達度調査（小学校）の実施による学力定着度の把握・分析
- 読書を楽しむ習慣づくりの推進



具体的な取組

1 「チーム学校」としての組織力向上

●「スクールプラン」、「学力向上推進プラン」に基づいた学校経営の促進

各種調査結果やデータ等に基づき、学校評価と関連付けて「スクールプラン」を作成・公表・実行するとともに、「学力向上推進プラン」を実行するよう指導・支援する。

●組織力向上のための管理職研修会の実施

各校の現状や課題に応じて、学習指導等の改善・充実に向けた組織的・計画的な取組を進めるよう指導・支援する。

- 校長を対象とした研修会
- 教頭を対象とした研修会

●義務教育9年間を見通した計画的・継続的な学習指導の促進

各中学校区において、学習指導についての相互理解を深めるとともに、相互の授業参観等に取り組みよう指導・支援する。

2 学び続ける教員の育成

●学校の取組等を支援する「きのくに学力定着フォローアップ事業」の実施

優れた教育実践力をもつ退職教員を、学力定着に課題を抱える小・中学校（30校）に派遣し、学校の取組、若手教員の授業力や学級経営力の向上を支援する。

●組織力、授業力向上に向けた研修会の実施

最新の教育動向を踏まえ、本県教育課題に直結する研修会を実施することで、教員の授業力を高める。

- 「主体的な学び」充実に係る研修会
- 中学校英語教員研修

●教員の授業力向上に向けた教科等研究団体の研究支援の実施

県内各地域の教員が自主的に集まり教科指導方法等を研究している教科等研究団体に対し、研修会等を充実させるために支援する。

3 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善

●「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条 第二版（きのくに学習スタンダード）」の活用の徹底

「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条 第二版（きのくに学習スタンダード）」の活用を徹底するとともに、学習評価を充実するよう、指導・支援する。

●市町村教育委員会と連携し、「こどもが主役である授業」の実現や授業力向上をめざした指導・支援の実施

県教育委員会と市町村教育委員会の各指導主事が連携を図り、学校訪問等を通じて授業参観シートの活用等による「こどもが主役である授業」の実現や授業力向上をめざした学校の取組を計画的に指導・支援する。

●児童生徒の主体的な取組等を促進する「わかやまスクールパワーアップ事業」の実施

県内の公立学校が独自に実施する、児童生徒の主体的な取組や、地域の実情に応じた学校の取組を支援する。

●探究的な学びに係る実践力の向上を図る「きいtubeで発信事業」の実施

児童生徒自らが、総合的な学習の時間等の取組や発表など、各学校の取組を紹介することを通して、県内全域の探究的な学びに係る実践力の向上を図る。

●国語・理科授業事例集（DVD）及び動画コンテンツの活用の促進

教員の授業力を向上させるため、主体的・協働的な学びの実現をめざした授業づくりの指導用映像資料（DVD）や動画コンテンツの活用を、研修会や学校訪問等を通じて促進する。

●学校図書館の活用の促進

学校図書館を常に活用できる環境に整えるよう、指導・支援する。

●ICT活用の促進

GIGAスクール構想による1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを効果的に活用した学習活動の一層の充実及び授業改善に取り組むよう、指導・支援する。



4 学力定着のための基盤づくり

●県提供教材の活用等による補充学習の充実と家庭学習の習慣化の促進

・「チャレンジ！漢字の博士試験」や、過去の中学校学習到達度調査をデジタル化した教材等、1人1台端末で活用できる教材の活用を推進することで、補充学習や家庭学習の充実を図る。

・マスター問題集、チャレンジ確認シート等の活用を促すとともに、学力の確実な定着を図るよう指導・支援する。

・「家庭学習の手引き」等を活用した家庭学習を推進し、家庭学習の習慣化を図るよう、指導・支援する。

●県学習到達度調査（小学校）の実施による学力定着度の把握・分析

当該学年までに学習した基礎的・基本的な学力の定着状況を把握し、授業改善や個に応じた指導に生かすよう、指導・支援する。

○小4・小5…10月15日（水）

●読書を楽しむ習慣づくりの推進

こどもたちの読書習慣の向上や読書に親しむ機会の充実を図るため、学校図書館や読書手帳の活用を推進する。

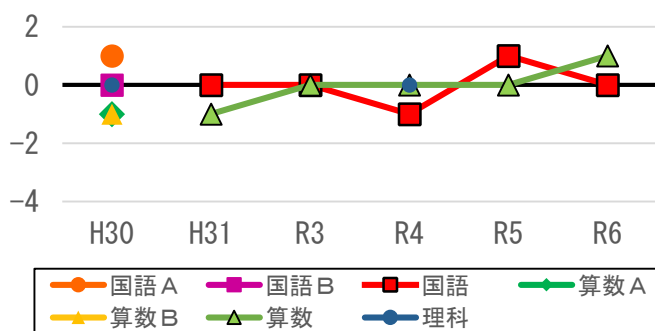
県教育委員会
「学力向上」ページ



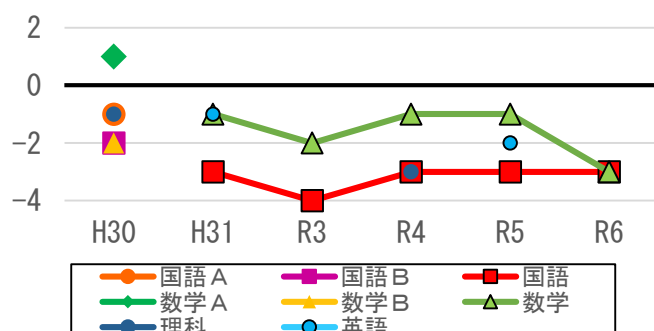
成果指標に掲げる「全国学力・学習状況調査」の調査項目の結果

●教科に関する調査結果で、全ての教科の県平均正答率が全国平均以上になる。

差(pt) 全国との差（小学校）



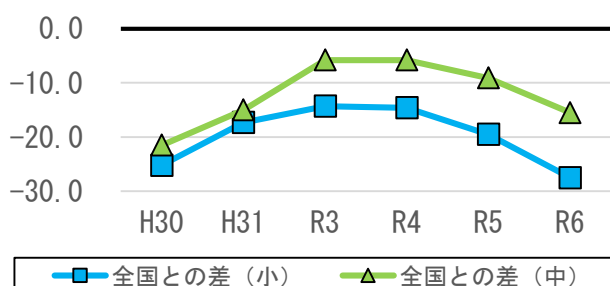
差(pt) 全国との差（中学校）



●次の学校質問調査結果が、全国の割合と同程度になる。

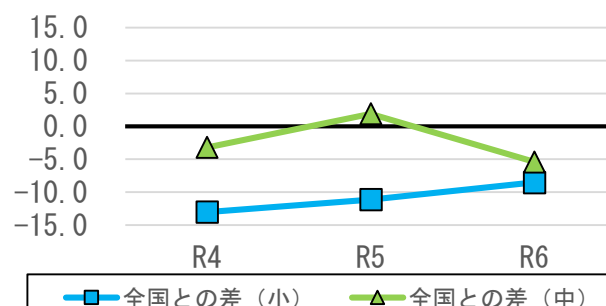
- ・近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行っている学校の割合

差(pt) 全国との差



- ・自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒に ICT 機器を週 3 回以上使用させている学校の割合

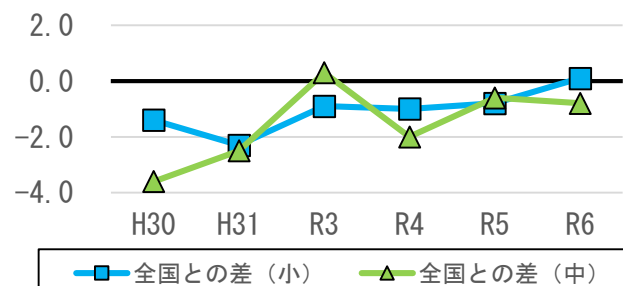
差(pt) 全国との差



●次の児童生徒質問調査結果が、全国の割合と同程度になる。

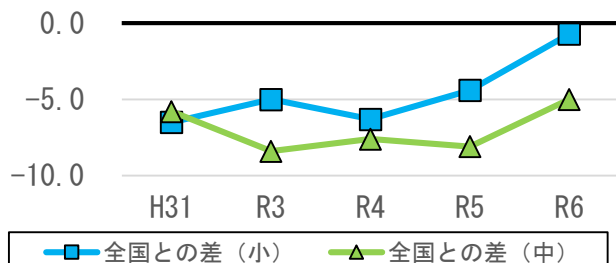
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う児童生徒の割合

差(pt) 全国との差



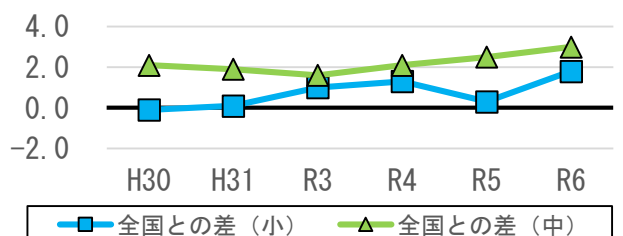
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合

差(pt) 全国との差



- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、全く勉強をしない児童生徒の割合

差(pt) 全国との差



※R2は新型コロナウイルス感染症の影響等により実施見送り